

Pioneer

クルーズスカウターユニット

取扱説明書

車への取り付けは、必ずこの取扱説明書に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。この場合は、弊社では一切の責任を負いかねます。

お客様へ

購入後はじめて本機を使うときは、初期設定が必要です。初期設定を行ってからご使用ください。

販売店様へ

取り付け作業が完了しましたら、この取扱説明書はお客様へお渡しください。

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）
受付時間　月曜～金曜 9：30～18：00、土曜 9：30～12：00、13：00～17：00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）
●カーオーディオ／カーナビゲーション商品のご相談窓口およびカタログのご請求窓口
電話： ☎ 0120-944-111 【一般電話】 044-572-8101 FAX： 044-572-8103
<ご注意>
●「0120」で始まる ☎ フリーコールは、携帯電話・PHS一部のIP電話などからは、ご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHS・IP電話などからご利用可能ですが、通話料がかかります。正確なご相談対応のために折り返しお電話をさせていただくことがございますので発信者番号の通知にご協力いただけますようお願いいたします。
●修理に関しては、ナビゲーションの取扱説明書の裏表紙をご覧ください。
インターネットホームページ <i>http://pioneer.jp/support/</i> ※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内お客様登録など

記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

VOL.045

パイオニア株式会社

〒212-0031

神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

©パイオニア株式会社 2012

< ND-CS2 / AVIC-VH99CS / AVIC-ZH99CS >

< KAMZF > < 12D00000 > < CRA4547-B >

carrozeria

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より 1 年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている弊社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店または修理受付窓口（沖縄県のみ沖縄サービス認定店）にご連絡ください。連絡先については、ナビゲーションに付属の取扱説明書の裏表紙の「修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店または修理受付窓口（沖縄県のみ沖縄サービス認定店）にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

弊社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低 6 年間保有しています。（性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

商標・著作権など

•SDHC ロゴは SD-3C,LLC の商標です。



•eSOL ロゴはイーソル株式会社の登録商標です。



•当製品には、イーソル株式会社の PrKERNELv4、PrFILE2、SD Memory Card Driver、PrUSB/Device が搭載されています。

•PrKERNELv4、PrFILE はイーソル株式会社の登録商標です。

•OpenSSL

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

Copyright (c) 1998-2008 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

- All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
- The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
- Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
- Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related (-).

- If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

- 本製品に収録されたデータおよびプログラムの著作権は、弊社および弊社に対し著作権に基づく権利を許諾した第三者に帰属しております。お客様は、いかなる形式においてもこれらのデータおよびプログラムの全部または一部を複製、改変、解析などすることはできません。
- その他、製品名などの固有名詞は各社の商標又は登録商標です。
- 本製品の仕様および外観は、改善のため予告なく変更する場合があります。また、取扱説明書の内容と実物が異なることがあります。その場合における本製品の改造、またはお取り換えのご要望には応じかねます。

はじめに

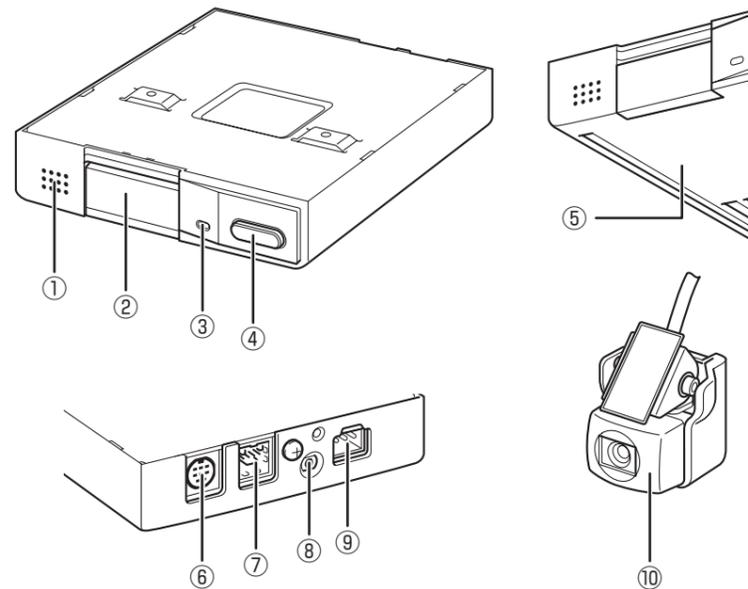
使用上のご注意

- 本機の取り付け、ご使用にあたっては、本機を接続する製品の「安全上のご注意」もお読みください。
- 本機は単品では動作しません。必ず弊社製対応ナビゲーションと接続して使用してください。対応ナビゲーションについては、販売店にご確認ください。
- 本機を AVIC-VH09/AVIC-ZH09 でご使用になるには、ナビゲーションのバージョンアップが必要です。
- 天候や時間帯等の周囲の状況によって、正しく認識できない場合があります。
- 速度標識検知機能は、夜間やトンネル等の暗い環境では、認識率が著しく低下します。
- ダッシュボード上に明るい色の物を置くと、フロントガラスに反射してカメラ映像に写り込み、誤認識の原因となる場合があります。ダッシュボード上には明るい色のものを置かないでください。
- 本機は事故の証拠として、効力を保証するものではありません。
- 本機は衝撃(加速度)を検知して事故発生前後の映像を記録しますが、全ての状況において映像の記録を保証するものではありません。
- 本機で録画した映像は、本来の目的以外には使用しないでください。使用目的や使用方法によっては、被写体のプライバシーなどの権利を侵害する場合があります。
- 重大事故などで、衝撃を検知後に電源が断たれた場合、録画できません。また、SDカード内に記録されているデータが破損してしまう可能性があります。
- 弊社では、破損したデータや消去したデータの復活サービスは行っておりません。
- 本機をご購入後、初めて電源を入れたときは、ナビゲーション本体が GPS の時刻を受信するまで、ドライブメモリー、画像認識ともに機能しません。
- 本機は、電源 ON 後にナビゲーション本体が GPS の時刻を受信すると、記録用の時刻が自動的に補正されます。
- 本機で表現する全ての機能は、周囲の安全を保証するものではありません。必ず実際に目で安全を確認しながら走行してください。

SD カードについて

- 本機は、SDHC カード(4 GB ~ 32 GB、Class4 以上)に対応しています。すべての SDHC カードの動作を保証するものではありません。
- 本書では、SDHC メモリーカードを、便宜上「SD カード」と表記しています。
- SD カードへのアクセス中は、SD カードを抜かないでください。データやカード自体が破損する恐れがあります。
- SD カードは寿命があります。普通に使用していても正常に書き込みや消去などの動作をしなくなる場合があります。
- お持ちのパソコンで認識している SD カードが、まれに本機で認識しない場合があります。この場合、SD カードの不具合によっては、専用のフォーマットツールでフォーマットすることにより認識する場合があります。また、パソコンの標準機能でフォーマットをすると SD 非準拠のフォーマットになるため、データの書き込み、あるいは読み出しが出来ないなどの不具合が発生することがありますので、専用フォーマットソフトでフォーマット作業を実行することが推奨されています。ただし、フォーマットした場合は、SD カードに記録されたデータが全て消失します。フォーマットの際は、必ず SD カードデータのバックアップを作成してから行ってください。
- SD カードのフォーマットソフトウェアは、SD アソシエーションの以下ホームページより入手できます。<https://www.sdcard.org/jp/> (2012 年 3 月時点転載)
- フォーマット作業による SD カードの不具合修復を弊社が保証するものではありません。また、本作業により、SD カードのデータ消失並びに、その他損害が発生した場合は、弊社として責任を負えません。フォーマットソフトの説明書などをよくお読みになり、あくまで、お客様の判断・責任のもとでフォーマット作業は実行してください。

各部の名称と主な働き



① マイク

車内の音を集音します。

② SD カードスロット

SD カードを挿入します。

③ SD カードアクセスインジケータ

本機の状態を赤と緑の点灯 / 点滅で表現します。詳しくは、「インジケータ表示とブザー音について」をご覧ください。※本文中では、「インジケータ」と記載しています。

④ INDEX ボタン

押すとイベント録画を開始します。長く押すと連続録画を開始または終了します(連続録画中に押すとインデックスを登録します)。

⑤ プザー

本機の状態を音で表現します。詳しくは、「インジケータ表示とブザー音について」をご覧ください。

⑥ カメラ接続端子

付属のカメラユニットを接続します。

⑦ ナビゲーション接続端子

付属のナビゲーション接続ケーブルでナビゲーションに接続します。

⑧ 外部マイク接続端子

ナビゲーションに付属の音響特性測定用マイクが接続できます。本体内部のマイクで音が拾いにくい場合に使用します。

⑨ 電源接続端子

付属の電源コードで車両の+バッテリー電源に接続します。

⑩ カメラ

車両前方の映像を撮影します。

SD カードの入れかた・取り出しかた

SD カードを挿入する

1 SD カードスロットカバーを開ける



2 “カチッ” と音がするまで SD カードを差し込む

端子面を上(ラベル面を下)にしてゆっくと挿入します。



3 SD カードスロットカバーを閉じる

メモ

- SD カードスロットカバーは必ず閉じてください。閉じないとデータが保存できません。

SD カードを取り出す

1 SD カードスロットカバーを開ける



2 インジケータが緑点滅になっていることを確認する



3 “カチッ”と音がするまで SD カードを押し込んで離し、SD カードを取り出す



4 SD カードスロットカバーを閉じる

メモ

- SD カードを取り出す際は、SD カードスロットカバーを開け、インジケータが緑点滅になっていることを確認してから SD カードを取り出してください。インジケータが赤色の時に SD カードを抜くと、SD カード内のデータやカード自体を破損することがあります。

接続・取り付け部品を確認する

本体関係



クルーズスカウターユニット本体 × 1



ブラケット × 1



ナビゲーション接続ケーブル × 1



電源ケーブル × 1



セムスネジ (3 mm x 6 mm) × 1



タッピングネジ (4 mm x 12 mm) × 4



樹脂クランパー × 3

カメラ関係



カメラ × 1



カメラカバー × 1



金属クランパー × 3



クリーナークロス × 1

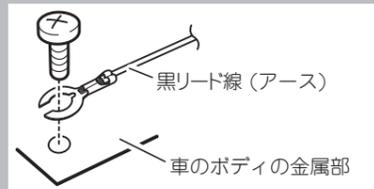


六角レンチ (2.5 mm) × 1

接続の前に知ってほしいこと

接続上のご注意

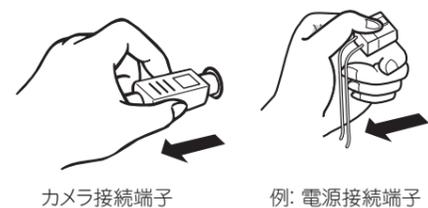
- 本機の黒リード線（アース）を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。



- 黒リード線（アース）は、パワーアンブなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となる恐れがあります。
- 必ず付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると故障する恐れがあります。

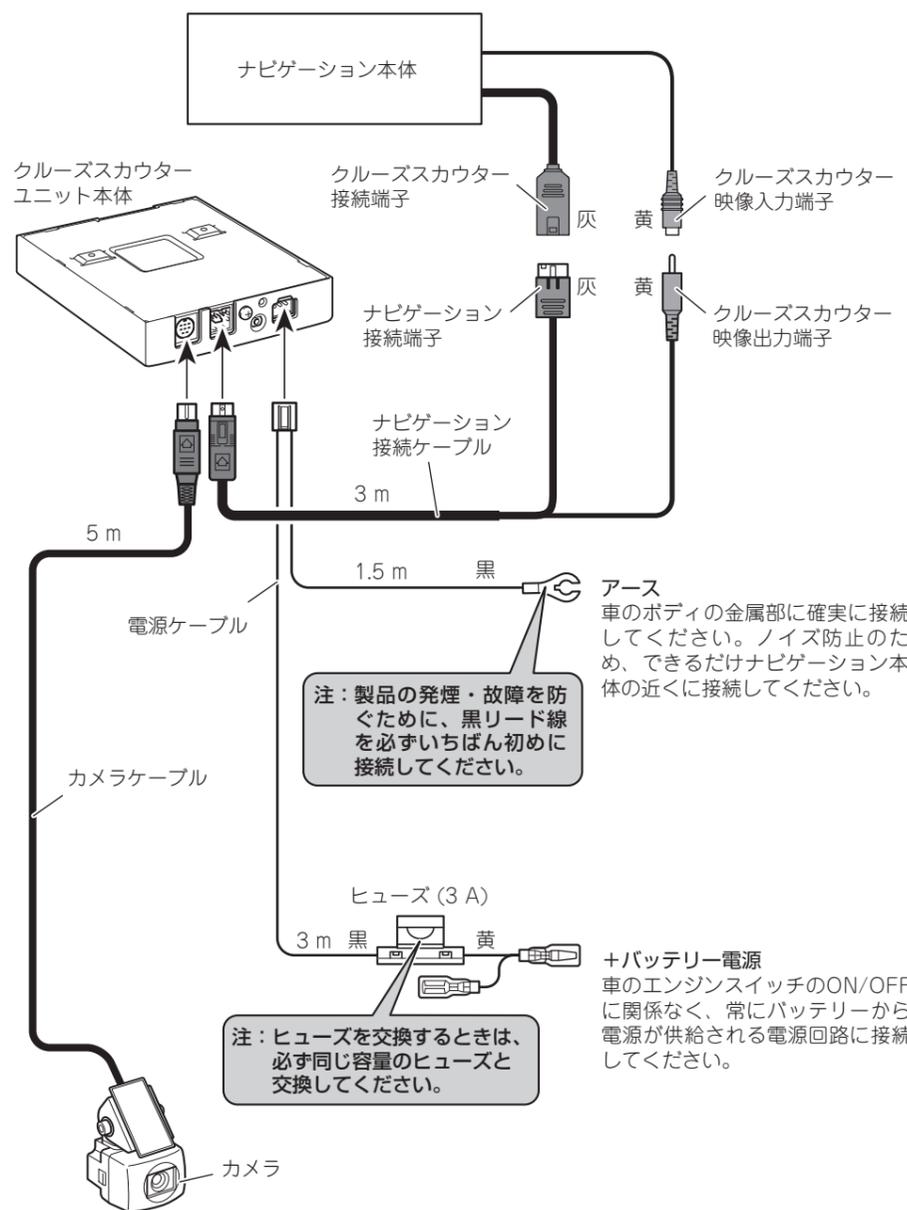
接続端子の脱着のしかた

- 接続端子は、“カチッ”と音がするまで押し込んで、確実に接続してください。スムーズに入らない場合は、方向が間違っている可能性がありますので、コネクターの向きを確認してください。また、無理に挿入しないでください。故障の原因となる場合があります。
- カメラ接続端子を外すときは、図のようにコネクタ部分を持って引っ張ってください。コードを引っ張ると、コネクタが破損してしまうことがあります。
- その他の接続端子を外すときは、図のようにコネクタ部分を持ってロックを押しながら引っ張ってください。コードを引っ張ると、コネクタが破損してしまうことがあります。



接続のしかた

必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください。



取り付けの前に知ってほしいこと

警告

- エアバッグ装着車に取り付ける場合は、エアバッグのカバー部分および作動時の妨げになるような場所には絶対に取り付けしないでください。エアバッグが正常に動作しなかったり、動作したエアバッグで本機が飛ばされ、事故やけがの原因となります。

注意

- エアバッグ装着車に取り付ける場合は、車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。エアバッグが誤動作する原因となることがあります。

取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

- まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認してから、取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

両面テープを貼り付ける前に

- 両面テープを貼り付けるところは、汚れをよくふきとってください。

はがれないようにしっかり取り付ける

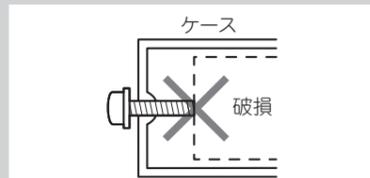


取り付け部の接着が弱いと、走行中にはがれて事故の原因になります。ときどき点検してください。

本体の取り付け位置

取り付け上のご注意

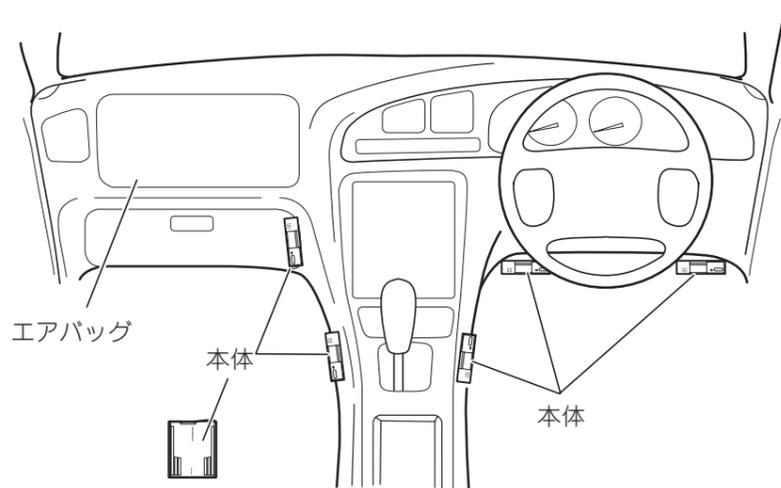
- 必ず本機に付属のネジを使用して、指定どおりに取り付けしてください。本機に付属以外のネジを使用すると、破損の原因となります。



- 本体は、付属のブラケットおよびタッピングネジを使用して、しっかりと車両に固定してください。走行中に落下して、ブレーキペダルの下に入り込むと大変危険です。

- 次のような場所には絶対に取り付けしないでください。高温により故障するおそれがあります。
 - * ダッシュボードやリアトレイの上のように、直射日光の当たる場所
 - * ヒーターの吹き出し口の近く
 - * 床面の下部に、マフラー等の高温になるものがあるところ
- ドア近くの雨水がかかりやすい場所には取り付けしないでください。
- 床面など、ホコリや泥等が混入しやすい場所には取り付けしないでください。
- 緊急用具、ジャッキ、工具、車検証などの出し入れの邪魔にならない場所を選んで取り付けしてください。

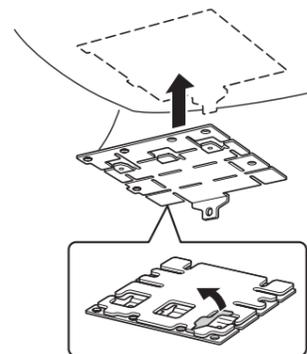
推奨取り付け例



本体の取り付け

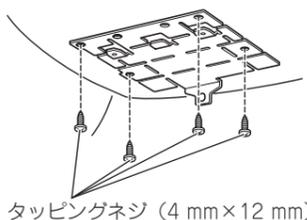
1 ブラケットを取り付ける

ブラケットのシールをはがして、運転に支障がない場所（→「本体の取り付け位置」）へブラケットをしっかりと取り付けます。



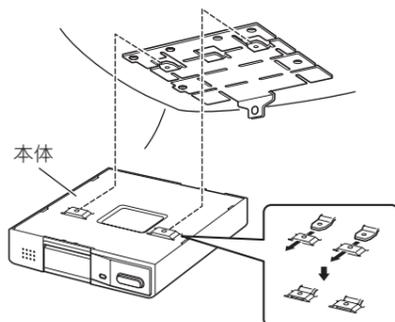
2 タッピングネジで固定する

タッピングネジ（4 mm × 12 mm）4本で、ブラケットをダッシュボード下などへ固定します。



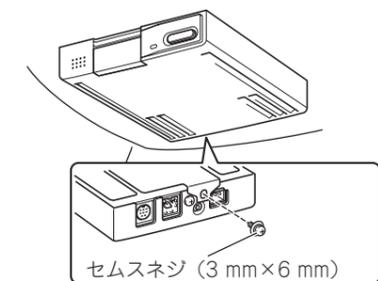
3 本体を取り付ける

本体のブラケット取り付け穴に、ブラケットのツメを差し込みます。



4 本体をネジで留める

本体裏側でブラケットと本体をセムスネジ（3 mm × 6 mm）で留めます。



5 ケーブルを固定する

「接続のしかた」に従って接続を行い、付属の樹脂クランパー3個で、ナビゲーション接続ケーブルを固定します。

カメラの取り付け

取り付け上のご注意

- 保安基準*に適合させるため、本書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。
- *保安基準とは、道路運送車両の保安基準第29条第4項第6号に対する、平成15年9月26日付の運輸省（現、国土交通省）令第95号をいいます。
- 本書では、カメラの取り付け前に車内の内張りを取り外すよう説明していますが、ピラーにフロントエアバッグを搭載している車両の場合は、絶対にピラーを取り外さないでください。フロントエアバッグの誤動作などの原因となり大変危険です。ピラーを取り外さずにカメラを取り付ける方法については、お買い上げの販売店にご相談ください。
- カメラは、フロントウィンドウ取り付け専用です。フロントウィンドウ以外や車室外には取り付けしないでください。
- 必ずフロントウィンドウの指定の位置・寸法内に取り付けてください。

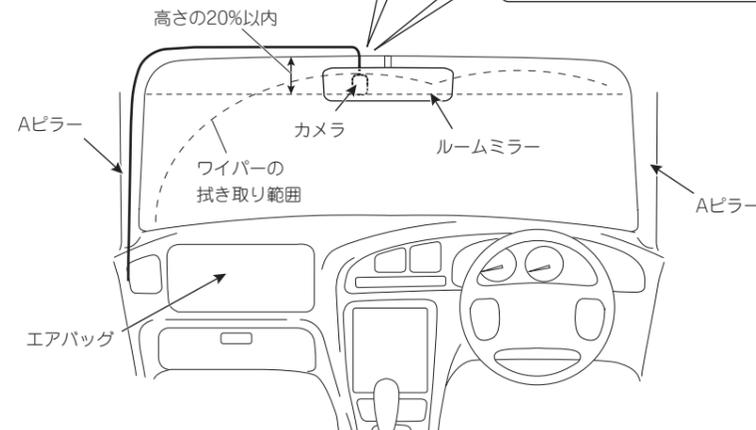
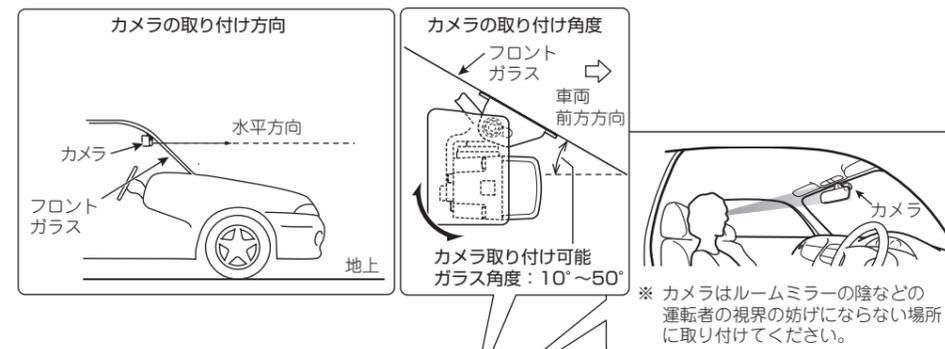
- 車種によって、指定の位置や寸法内に取り付けられないことがあります。詳しくは、販売店にご相談ください。
- カメラは、落としたり、レンズ部分には触れないよう、取り扱いには十分ご注意ください。
- 作業場所は、空気中にゴミ、ホコリなどが無い場所を選んでください。
- 気温が低いときやガラスがくもっている場合は、接着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチをONにしてウィンドウを暖めておいてください。

両面テープは、一度貼り付けると粘着力が弱くなるため貼り直しできません。必ずカメラを仮留めし、ケーブルの引き直しなどを十分に検討してから貼り付けてください。

取り付け指定位置

カメラは、以下の条件を全て満たす車両および位置に取り付けてください。

- フロントガラスの角度が10°～50°の車両
- フロントガラスの高さの20%以内の位置（ウエザ・ストリップ、モール等と重なる部分及びマスキングが施されている部分を除く実長の20%以内の範囲）
- 運転席から見て、ルームミラーの陰に隠れる位置
- カメラのレンズ部分がワイパーの拭き取り範囲内に入る位置
- カメラのレンズ部分がサンシェードやクロセラライン・クロセラパターンにかからない位置
- 車検ステッカーと重ならない位置
- 車幅の中心付近
- カメラが水平方向を向く位置
- カメラのケーブルが無理なく引き回せる位置
- 取り付け後にカメラの側面および背面にある六角ネジが回せる位置
- 取り付け後にカメラカバーが脱着できる位置



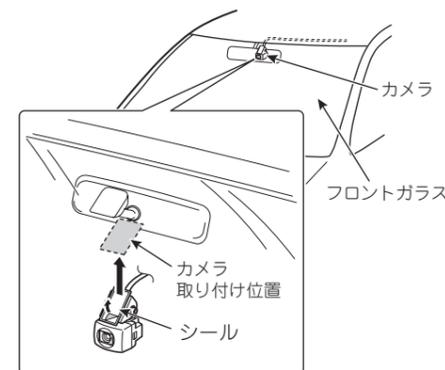
必ずお守りください

運転に安全な視野を確保し、性能を十分に発揮させるために、必ず「取り付け指定位置」に取り付けてください。指定位置以外に取り付けると道路運送車両の保安基準に適合せず、車検に通らなかったり、整備不良の対象となります。

1 付属のクリーナークロスで取り付け部分の汚れ・油などを取り除く

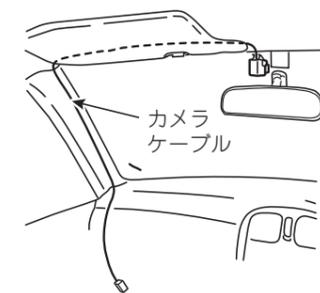
2 カメラを取り付ける

カメラのシールをはがして、フロントガラスの指定位置に取り付けます。



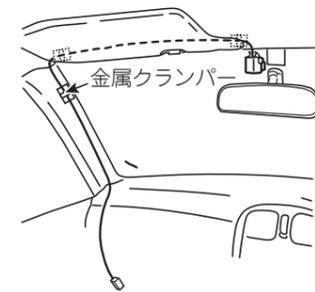
3 ケーブルを引き回す

カメラケーブルを助手席側に引き回します。



4 クランパーで固定する

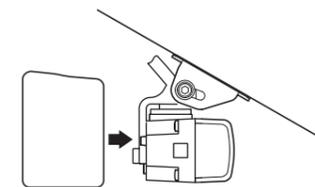
付属の金属クランパー3個でカメラケーブルを固定します。



5 接続状態の確認とクルーズスクアウト設定を行う（→次ページ）

6 カメラカバーを取り付ける

六角ネジがしっかり締まっていることを確認してからカメラカバーを取り付けます。



接続・取り付けが終わったら

必ず安全な場所に停車してパーキングブレーキをかけてから操作してください。

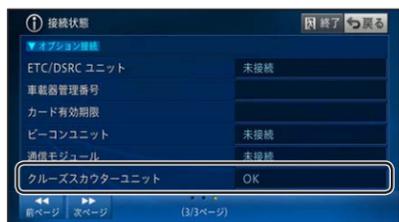
接続状態を確認する

接続・取り付けが終わったら、車のエンジンを掛けて接続状態を確認します。

- 1 「メニュー」を押し、**情報システム情報**→**接続状態**→**次ページ**→**次ページ**にタッチする



- 2 「クルーズスカウトユニット」が「OK」になっていることを確認する



- 3 終了にタッチする

クルーズスカウト設定を行う

次に、クルーズスカウト設定を行います。

- 1 「メニュー」を押し、**設定・編集**→**システム設定**→**クルーズスカウト設定**にタッチする



- 2 各項目を選んで設定を行う (→次ページ)



メモ

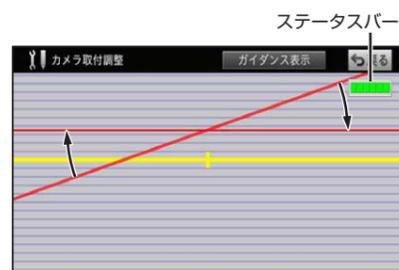
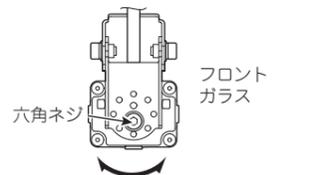
- 「カメラ取付調整」および「カメラ取付高さ入力」は本機を正しく動作させるために必要な設定です。必ず設定してください。

- 3 終了にタッチする

■カメラ取付調整

車両を地面と水平な位置に停車させ、カメラ取付調整を行います。

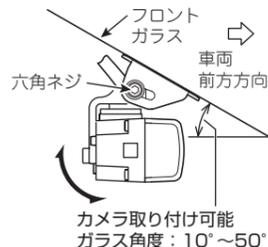
- ①カメラ背面の六角ネジを緩め、赤い線が青い線と平行になるように傾き角度を調整する



メモ

- スカウトモードの精度をより求めるお客様は、画面右上の緑色のステータスバーが6個全て点灯するのを待ってから調整を開始することをお勧めします。(6個全て点灯するまで10分程度かかります。)
- 「ガイダンス表示」にタッチすると、操作方法が表示されます。

- ②カメラ両側面の六角ネジを緩め、赤い線が黄色い線と重なるように上下の角度を調整する



メモ

- 調整後は、六角ネジをしっかりと締め付けてからカメラカバーを取り付けてください。
- カメラの取付角度を変更した場合は、必ず再度カメラ取付調整および消失点学習リセットを行ってください。

■カメラ取付高さ入力

地面からカメラまでの高さを数値(cm)で入力します。



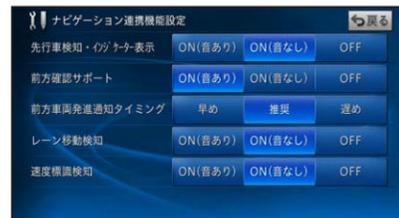
メモ

- カメラ取付高さを正確に入力しないと車間距離等の精度が悪くなります
- 「カメラ取付高さ入力」を入力しなかった場合は、燃費・車両設定の「車高」が設定されていれば、車高の85%の高さで動作します。

以降の項目は、必要に応じて設定してください。

■ナビゲーション連携機能設定

ナビゲーション連携機能に関する設定を行います。



先車検知・インジケータ表示

先車両を検知して、先車両捕捉時のターゲットスコップと車間距離インジケータ表示を行うかどうかの設定を行います。

- ON(音あり) : 先車両捕捉時のターゲットスコップ表示と車間距離インジケータ表示をします。また、先車両を捕捉した際に効果音を鳴らします。
- ON(音なし)* : 先車両捕捉時のターゲットスコップ表示と車間距離インジケータ表示をします。
- OFF : 先車両検知をしません。

- 「カメラ取付高さ入力」を入力しなかった場合は、燃費・車両設定の「車高」が設定されていれば、車高の85%の高さで動作します。

前方確認サポート

前方の信号機および前方車両を検知して、状況の変化をマークと音で案内するかどうかの設定を行います。

- ON(音あり)* : 前方確認サポートを行います。また、前方車両の発進を検知した際に効果音を鳴らします。
- ON(音なし) : 前方確認サポートを行います。
- OFF : 前方確認サポートは行いません。

前方車両発進通知タイミング

前方車両の発進を効果音で案内するタイミングの設定を行います。

早め : 早めのタイミングで案内します。
推奨* : 推奨のタイミングで案内します。
遅め : 遅めのタイミングで案内します。

レーン移動検知

高速道路(ハイウェイモード対象路線)でレーン移動や片寄り走行を検知するかどうかの設定を行います。

- ON(音あり) : レーン移動や片寄り走行の検知を行います。また、一定時間の片寄り走行を検知した際に効果音を鳴らします。
- ON(音なし)* : レーン移動や片寄り走行の検知を行います。
- OFF : レーン移動や片寄り走行の検知は行いません。

速度標識検知

速度標識検知を行うかどうかの設定を行います。

ON(音あり) : 速度標識検知を行います。また、標識を検知した際に効果音を鳴らします。

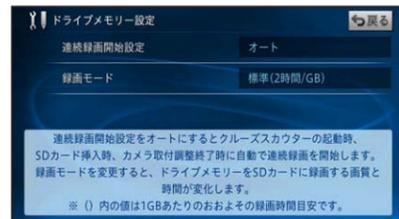
- ON(音なし)* : 速度標識検知を行います。
- OFF : 速度標識検知は行いません。

メモ

* マークは工場出荷時の設定です。

■ドライブメモリー設定

ドライブメモリー(連続録画およびイベント録画)に関する設定を行います。



連続録画開始設定

連続録画の録画開始方法を設定します。

オート* : ナビ起動時に自動的に連続録画を開始します。ナビ起動後にSDカードを挿入したときも自動的に連続録画を開始します。

マニュアル : INDEX ボタンの操作により連続録画を開始します。

録画モード

SDカードに保存する、ドライブメモリー(連続録画およびイベント録画)の録画モードの設定を行います。

高画質(1時間/GB) : 高画質モードで録画を行います。1GBあたりおよそ1時間の録画が可能です。

標準(2時間/GB)* : 標準モードで録画を行います。1GBあたりおよそ2時間の録画が可能です。

長時間(3時間/GB) : 長時間モードで録画を行います。1GBあたりおよそ3時間の録画が可能です。

■イベント録画設定

Gセンサーの衝撃検知によるイベント録画に関する設定を行います。



自動録画設定

Gセンサーが衝撃を検知したときに、イベント録画を行うかどうかの設定を行います。

ON* : イベント録画を行います。

OFF : イベント録画を行いません。

感度設定

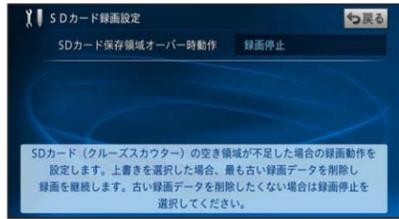
Gセンサーの検知する感度を設定します。

+ : 感度が高くなります。

- : 感度が低くなります。

■SDカード録画設定

SDカード(クルーズスカウト)の連続録画用の空き領域が不足した場合の連続録画に関する動作の設定を行います。



SDカード保存領域オーバー時動作

SDカードの連続録画用の空き領域が不足した場合の動作についての設定を行います。

上書き : 最も古い連続録画データ(5分単位)を順に消去して、連続録画を継続します。

録画停止* : 連続録画を停止します。

クルーズスカウターの使い方

スカウターモードを使う

本機で撮影している映像をナビゲーションの画面上に表示させることができます。

1 地図画面でビュードライバーズビューにタッチする



2 スカウターモード OFF → ON にタッチする



スカウターモードで表示されます。



メモ

- 地図画面上に、カメラで映した映像が合成されて表示されます。
- ドライバースビューに戻るには、【スカウターモード ON → OFF】にタッチします。

交差点案内表示 (ルート案内中)

ルート案内中は、案内地に近づくスカウターモードで表示されます。スカウターモードでは、映像上にルートの道塗り、案内方向、案内地までの距離スケール、案内地の旗が表示されます。



メモ

- 【案内表示解除】にタッチすると、距離バーが非表示になり、【スカウターモード ON → OFF】キーが表示されます。
- ナビゲーションに本機を接続すると、機能設定メニューの「交差点案内表示」が「ドライバースビュー (スカウターモード)」に自動設定されます。

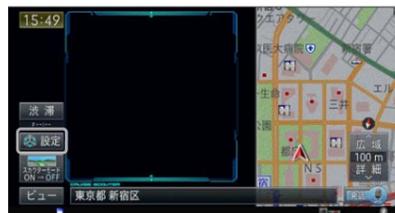
高速道路の上でスカウターモードを表示するには

出荷時は、機能設定メニューの「オートハイウェイモード」が ON になっているため、高速道路に乗ると、ドライバースビュー (スカウターモード) は解除され、ハイウェイモードに切り換わります。高速道路に乗ってもドライバースビュー (スカウターモード) で表示させておきたい場合は、「オートハイウェイモード」を OFF に設定してください。なお、一時的にハイウェイモードからスカウターモードに切り換えるには、再度手順 1 の操作 (「ビュー」メニューで「ドライバースビュー」にタッチ) をします。

地図画面からスカウターの設定を変更する

地図画面から、かんたんな操作で「先行車検知・インジケータ表示」、「レーン移動検知」、「速度標識検知」に関する設定を変更することができます。

1 地図画面で設定にタッチする



2 設定する項目にタッチする



タッチするごとに設定値が変化します。

メモ

- 設定内容については、「クルーズスカウター設定を行う」-「ナビゲーション連携機能設定」の各項目をご覧ください。
- 設定した内容については、「ナビゲーション連携機能設定」の設定に反映されます。

適正車間距離案内について

本機が先行車両を検知し、ナビゲーション画面上に先行車両検知表示 (ターゲットスコップ) と車間距離インジケータを表示します。



メモ

- 車間距離インジケータを使用するには、クルーズスカウター設定の「カメラ取付高さ入力」設定が正しく設定されている必要があります。なお、「カメラ取付高さ入力」が設定されていない場合は、燃費・車両設定の「車高」が設定されていれば、車高の 85% の高さで動作します。
- 車間距離インジケータは、車間距離変化状況、適正車間距離範囲を表示します。
- 車間距離インジケータは、30km/h を超えた時点で表示を開始し、10km/h を下回った時点で表示を消去します。
- 先行車両を検知すると効果音を鳴らすように設定することもできます。
- 車間距離が車間時間で約 2 秒を下回った場合は、車間距離表示にアイコンを表示します。
- スカウターモード表示中にカメラ映像部分にタッチすると、前方車両捕捉状態を強制的にリセットします。
- スカウターモード表示中は、前方車両認識表示 (ターゲットスコップ) を行います。
- 「先行車検知・インジケータ表示」は、クルーズスカウター設定で変更できます。

前方確認サポートについて

停車中に「信号機認識」、「前方車両発進検知」を行い、前方の状況をサポートする機能です。

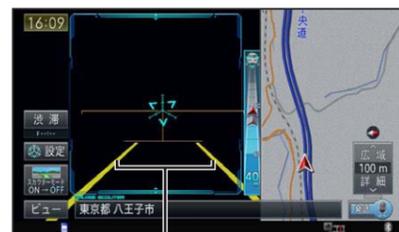


メモ

- 信号機を検知すると、赤い信号機候補枠と信号機検知枠アイコンが表示されます。
- 信号機が赤から青に変わったのを検知すると青い信号機候補枠が 1 つ表示され、「前方確認」メッセージが表示されます。
- 「信号機認識」は一般道でのみ動作します。なお、矢印信号には対応していません。
- 前方車両の発進を検知すると、前方車両発進検知アイコンおよび前方車両発進軌跡が表示されます。また、「前方車両発進通知タイミング」で設定したタイミングで「前方確認」メッセージが表示され、効果音が鳴ります。
- 前方確認メッセージプレートは、走行開始するまでメッセージプレートにタッチすると消去されます。
- 「前方確認サポート」は、クルーズスカウター設定で変更できます。

車線認識表示 / レーン移動検知について

高速道路 (ハイウェイモード対象路線) を走行中に車線を認識して黄色で表します。また、レーン移動や片寄り走行を検知すると紫色に変化します。



車線認識表示 (黄色)

レーン移動や片寄り走行を検知すると



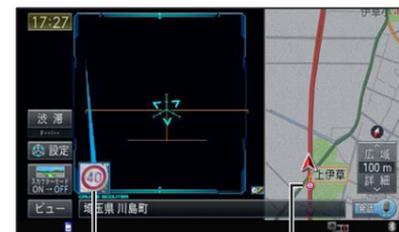
レーン移動検知 (紫色)

メモ

- スカウターモード表示中は、ハイウェイモード対象路線を走行中に車線認識表示を行います。
- レーン移動及び片寄り走行を検知すると、車線認識表示が黄色から紫色に変化します。
- 設定により、一定時間片寄り走行を検知すると音を鳴らすようにすることもできます。
- 「レーン移動検知」は、クルーズスカウター設定で変更できます。

速度標識検知機能について

走行中にクルーズスカウターが検知した速度標識を拡大表示・登録する機能です。



標識拡大表示 速度標識登録地マーク (表示設定 ON 時)

メモ

- 速度標識を検知すると、画面上に速度標識の拡大画像が約 4 秒間表示されます。
- 速度標識を検知した場所は、速度標識登録地として最大 1,000 件まで自動登録されます。1,000 件を超える場合は、登録日時が最も古いものを削除して登録されます。(編集した速度標識登録地を除く)
- 機能設定メニューの「速度標識登録地マーク表示」を「ON」に設定すると、速度標識登録地マークが地図上に表示されます。→「速度標識登録地マークを地図上に表示する」
- 速度標識登録地は編集することにより、登録地ごとに近づいたときに効果音を鳴らしたり、速度標識登録地マークを非表示に設定することができます。また、不要な登録地は削除することもできます。→「速度標識登録地を編集する」
- 登録済みの速度標識登録地の同じ標識を再び検知した場合は、二重登録されません。
- 速度標識検知の設定が OFF になっているときは、拡大画像の表示や登録は行われません。
- 「速度標識検知」は、クルーズスカウター設定で変更できます。
- 本機能は細街路では動作しません。

速度標識登録地マークを地図上に表示する

速度標識検知機能により登録された速度標識登録地マークを地図上に表示します。

1 「メニュー」を押し、編集・設定 - 機能設定 - 速度標識登録地マーク表示 - にタッチする



2 ON にタッチする



速度標識登録地マークが表示されます。

クルーズスカウターの使い方

つづき

速度標識登録地を編集する

速度標識検知機能によって自動登録された速度標識登録地を編集することができます。ここでは表示設定を編集する手順で説明します。

1 「メニュー」を押し、編集・設定 - データ編集 - 速度標識登録地にタッチする



2 編集にタッチする



メモ

- 【消去】にタッチすると、速度標識登録地を消去できます。

3 編集する速度標識登録地にタッチする



4 表示設定または効果音設定にタッチする



表示設定
速度標識登録地マークを地図上に表示するかどうか設定します。
ON* : 速度標識登録地マークを表示します。
OFF : 速度標識登録地マークを表示しません。

効果音設定
速度標識登録地マークに近づいたときに効果音を鳴らすかどうかを設定します。表示設定がONに設定されている場合のみ有効です。
ON : 効果音を鳴らします。
OFF* : 効果音を鳴らしません。

5 ONまたはOFFにタッチする



メモ

* マークは工場出荷時の設定です。

連続録画を使う

本機で撮影した映像および音声をSDカードに録画することができます。録画データにはルート情報、走行履歴情報、インデックス情報が埋め込まれ、5分毎に1つのファイルが作成されます。録画した映像および音声は、パソコンリンクソフト「ナビスタジオ」のスカウターマネージャーで確認・編集することができます。

1 録画を開始したいタイミングで、本機のINDEXボタンを2秒以上押す

“ピピー”と音がして連続録画を開始します。

メモ

- クルーズスカウター設定のドライブメモリー設定で連続録画開始設定が「オート」になっているときは、ナビゲーション起動時に自動的に連続録画を開始します。
- 連続録画中は、本機のインジケーターが赤く点灯し、地図画面の情報ウィンドウにREC/AUTOアイコン（連続録画開始設定が「オート」の場合）またはREC/MANUALアイコン（連続録画開始設定が「マニュアル」の場合）が表示されます。
- 連続録画中に、INDEXボタンを短く押すと“ピッ”と音がしてインデックス情報が書き込まれます。連続録画中に衝撃を検知した場合は、“ピピッ”と音がしてインデックス情報が書き込まれます。インデックス情報は、ナビスタジオで見るときにサーチすることができます。
- カスタムキーまたはカスタムリストに「連続録画を開始/停止する」または「イベント録画をする・インデックスをつける」を割り当てて、ナビゲーション本体または別売リモコンの[C]ボタンで操作することも可能です。詳しくは、ナビゲーションの取扱説明書をご覧ください。

2 録画を停止したいタイミングで、本機のINDEXボタンを2秒以上押す

“ピピー”と音がして連続録画を停止します。

イベント録画（Gセンサー検知）を使う

ナビゲーションが衝撃を検知した場合、検知した瞬間の前15秒間/後5秒間（SDの場合）の映像および音声を録画する機能です。録画した映像および音声は、パソコンリンクソフト「ナビスタジオ」のスカウターマネージャーで確認することができます。

1 ナビゲーションが衝撃を検知する

“ピピッ”と音がして衝撃検知前後の録画データが保存されます。

メモ

- SDカードには、最大50件のイベントを録画できます。既に50件保存されている場合は、最も古いイベント録画データに上書き保存されます。
- SDカードに保存できない状態のときは、前10秒間/後5秒間の録画データが本機内蔵のメモリーに最大3件まで保存されます。既に3件保存されている場合は、最も古いイベント録画データに上書き保存されます。本機内蔵のメモリーにデータがある場合は、画面にREC/AUTOアイコンが表示されます。本機にSDカードを挿入してSDカードスロットカバーを閉じると、自動的にSDカードに録画データが転送されます。
- 起動直後や録画モードを変更した直後は、前15秒間の録画データを保存できない場合があります。
- イベント録画の自動録画は、クルーズスカウター設定の「イベント録画設定」の「自動録画設定」でON/OFFできます。
- Gセンサーの検知する感度は、クルーズスカウター設定の「イベント録画設定」の「感度設定」で変更できます。

イベント録画（ユーザー操作）を使う

撮りたいタイミングの前15秒間/後5秒間（SDの場合）の映像および音声を録画する機能です。録画した映像および音声は、パソコンリンクソフト「ナビスタジオ」のスカウターマネージャーで確認することができます。

1 録画したいタイミングで、本機のINDEXボタンを押す

“ピッ”と音がして操作前後の録画データが保存されます。

メモ

- 連続録画中およびイベント録画の録画データ保存中のご使用になれません。
- 録画データの保存条件は、イベント録画（Gセンサー検知）と同様です。
- カスタムキーまたはカスタムリストに「イベント録画をする・インデックスをつける」を割り当て、ナビゲーション本体または別売リモコンの[C]ボタンで操作することも可能です。詳しくは、ナビゲーションの取扱説明書をご覧ください。

クルーズスカウター消失点学習を行う

画像の認識がうまくいかないと感じた場合やカメラ取付調整を行った場合は、クルーズスカウター消失点学習を以下の方法でリセットして再学習させてください。

1 「メニュー」を押し、情報 - システム情報 - センサー学習状況 - クルーズスカウター消失点学習 - はいにタッチする



2 車を走行させる

メモ

- 必ずクルーズスカウター設定の「カメラ取付調整」および「カメラ取付高さ入力」を行ってから学習してください。なお、「カメラ取付調整」の際、右上のインジケーターが6個点灯するまで待ってから調整することをお勧めします。
- 下記のような条件下で消失点学習することをお勧めします。
 - ・2車線以上で走行車線の両側の白線がはっきりしている道
 - ・空いている道（道が混んでいると白線が認識できない）
 - ・なるべく直線に近い道
 - ・天気が良好なとき（雨、霧等で視界が悪くないとき）
 - ・太陽が前方に見えないとき
- 学習が完了すると、先行車検知ゲージが水平線と車線の中心に移動します。また、手順1の画面の「クルーズスカウター消失点学習」が「学習済み」と表示されます。

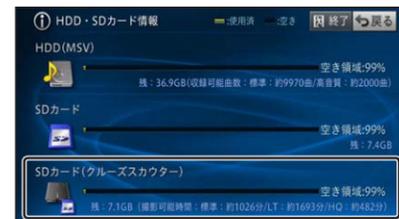
SDカードの状態を確認する

本機にセットされたSDカードの状態は、以下の方法で確認することができます。

1 「メニュー」を押し、情報 - システム情報 - HDD・SDカード情報 - タッチする



SDカードの状態が表示されます。



工場出荷時の状態に戻す

内蔵メモリーに保存されたイベント録画データおよび消失点の学習結果を消去して、出荷時の状態に戻します。

1 INDEXボタンを押しながら、車のエンジンを掛け、そのまま押し続ける

“ピッピッピッピッ…”と音がして工場出荷時設定モード（状態1）に入ります。

2 もう一度INDEXボタンを長く押す

“ピッピッピッ、ピッピッピッ、…”と音がして工場出荷時設定モード（状態2）に入ります。

3 INDEXボタンを押す

“ピーピーピー”と音がして初期化を開始します。

インジケーターが、赤点灯⇄緑点灯を繰り返します。

しばらくすると、“ピッピッピッ”と音がして初期化が終了します。

メモ

- 途中で異なる操作をすると、初期化せずに通常起動します。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、下記内容をご確認ください。

現象	原因・対処
車間距離を表示しない 「計測不可（未設定）」と表示される	<ul style="list-style-type: none">クルーズスカウター設定の「カメラ取付高さ入力」および燃費・車両設定の「車高」の両方が未入力の場合、車間距離を表示できません。カメラ取付高さを入力してください。
車間距離が間違っていると感じる	<ul style="list-style-type: none">消失点学習が未学習の場合は車間距離は不正確になります。しばらく直線道路を走行して学習させてください。クルーズスカウター設定の「カメラ取付高さ入力」の入力値が実際と異なる場合、正確な車間距離が表示できない場合があります。入力値をご確認ください。入力値が正しい場合は、消失点学習のリセットを行ってください。平面道路を走行中の場合を想定して車間距離を算出しています。自車、または、先行車が坂の途中にいる場合などは正しくない場合があります。
正しく認識しない	<ul style="list-style-type: none">本機をご購入後、一度も GPS 衛星を受信していない場合は画像認識できません。地図画面の時刻表示が、「—：—」と表示されている場合は、見晴らしの良い場所に車を移動して GPS 衛星を受信させてください。天候や時間帯等の周囲の状況によって、正しく認識できない場合があります。カメラ取付調整画面で緑色のステータスバーが6個全て点灯するのを待ってから、再度カメラ取付調整と消失点学習のリセットを行ってください。速度標識検知機能は、夜間やトンネル等の暗い環境では、認識率が著しく低下します。
書き込みエラーが発生する 録画できない	<ul style="list-style-type: none">本機をご購入後、一度も GPS 衛星を受信していない場合は録画できません。地図画面の時刻表示が、「—：—」と表示されている場合は、見晴らしの良い場所に車を移動して GPS 衛星を受信させてください。SD カードに他のデータを書き込むと、録画できなくなることがあります。SD カードを確認してください。SD カードには、ライトプロテクト（書き込み防止）機能が付いています。使用時には、ライトプロテクトスイッチを OFF にしてください。正しくフォーマットされていない可能性があります。専用のフォーマッターを使用してフォーマットし直してください。詳しくは、本書の「SD カードについて」をご覧ください。SD カードには寿命があります。新しい SD カードでお試してください。パーテーションを切った SD カードは使用できません。連続録画は、クルーズスカウター設定の「SD カード録画設定」が「録画停止」の場合、SD カードの連続録画用の空き領域が不足した場合は録画は自動停止します。工場出荷時は「録画停止」です。常に最新の連続録画データを保存したい場合は、「上書き」に設定してください。
消失点学習が終わらない	<ul style="list-style-type: none">再度カメラの取付調整と消失点学習のリセットを行ってください。

インジケータ表示とブザー音について

本機は、機器の状態をインジケータ表示とブザー音で確認できます。

インジケータ表示	状態	対処
緑点灯	SD カードが保存可能な状態にあるとき	正常動作です。
赤点灯	SD カードに保存中	正常動作です。
緑点滅 (0.25 秒間隔)	本機起動時	正常動作です。
緑点滅 (0.5 秒間隔)	SD カードが挿入されていない。または SD カードが保存できない状態にあるとき	SD カードを確認してください。
赤点滅	何らかのエラーが発生したとき	ナビゲーションとの接続を確認してください。
赤点灯⇔緑点灯	初期化中およびプログラム更新中	電源を切らずにそのままお待ちください。

ブザー音	状態	対処
ピッ	イベント録画（ユーザー操作）保存開始時 連続録画インデックス書き込み時	正常動作です。
ピピッ	イベント録画（Gセンサー検知）保存開始時	正常動作です。
ピピー	連続録画保存開始時 / 保存停止時	正常動作です。
ピーー	SD カードが保存できない状態にあるとき	SD カードを確認してください。
ピッピッピッピッ…	工場出荷時設定モード（状態 1）	正常動作です。
ピッピッピッ、ピッピッピッ、…	工場出荷時設定モード（状態 2）	正常動作です。
ピーピーピー	初期化開始	電源を切らずにそのままお待ちください。
ピーピッピッピッ	プログラム更新開始	電源を切らずにそのままお待ちください。
ピッピッピッ	終了 (初期化終了・プログラム更新終了)	自動的に再起動します。そのままお待ちください。
ピピーピピーピー (2 回繰り返す)	何らかのエラーが発生したとき	接続を確認してください。

ナビのメッセージ表示について

接続したナビゲーションでは、以下のメッセージが表示されます（バージョンによって異なる場合もあります）。

メッセージ	状態
イベント録画を記録しました。	イベント録画記録完了をお知らせするメッセージです。
クルーズスカウターの SD カードスロットを閉じてください。	本機の SD カードスロットカバーが開いています。
クルーズスカウターとナビゲーション本体のバージョンが異なります。適切なバージョンに更新してください。	弊社からの案内に従って、本機のバージョンアップを行ってください。
クルーズスカウターの異常を検出しました。販売店へご相談ください。	本機に異常が発生している状態です。スカウター本体の接続を確認して解消できない場合は、販売店へご相談ください。
録画を停止しました。SD カード（クルーズスカウター）を確認してください。	SD カード録画設定が「録画停止」に設定されていて、SD カードの連続録画用の空き領域が不足した場合、または SD カードに異常が発生し、書き込めない状態の場合に表示されます。SD カードを確認してください。
クルーズスカウターと通信ができなくなりました。クルーズスカウターを確認してください。	本機とナビゲーションが通信できない状態です。接続を確認してください。
クルーズスカウター消失点学習をリセットします。よろしいですか？	クルーズスカウター消失点学習をリセットするときの確認メッセージです。
連続録画を開始します。	カスタムリストまたはカスタムキーで連続録画を開始することを知らせるメッセージです。
連続録画を停止します。	カスタムリストまたはカスタムキーで連続録画を停止することを知らせるメッセージです。
インデキシングをします。	カスタムリストまたはカスタムキーで連続録画中にインデックスを書き込んだ時に表示されるメッセージです。
現在この機能は使えません。	カスタムリストまたはカスタムキーで選ばれた機能が実行できない状態です。
イベント録画を記録します。	カスタムリストまたはカスタムキーでイベント録画を記録することを知らせるメッセージです。
録画を開始できません。SD カード（クルーズスカウター）を確認してください。	SD カードに録画データを書き込めない状態です。SD カードを確認してください。

仕様

◆共通部

使用電圧：14.4 V DC (10.8 V ~ 15.1 V 使用可能)
アース方式：マイナスアース方式
最大消費電流：1 A
使用温度範囲：- 10℃ ~ + 60℃

◆カメラ部

出力映像：正像
撮像素子：カラー CMOS センサー 1/4 インチ
画素数：有効画素数 約 31 万画素
レンズ：広角 焦点距離 f=3.3 mm F 値 2.6
画角：水平：約 59° 垂直：約 45°
IR カット（車載用特殊フィルター）：有り
アイリス方式：電子アイリス
走査方式：プログレッシブ
同期方式：内部同期
S/N：40 dB 以上（推奨照度にて）
水平解像度：約 300 TV 本
照度範囲約 1.5 lx ~ 10 万 lx
映像出力：コンポーネント出力 (480P) 準拠 Y：1 Vp-p (75 Ω)、Pb、Pr：0.7 Vp-p (75 Ω)

ケーブル長：5.0 m

◆SD カード部

SPEED CLASS：Class4/6/10
フォーマット：Ver.2.0
最大メモリ容量：32 GB
ファイルシステム：FAT32
MPEG-4 エンコーディングフォーマット G.726 エンコーディングフォーマット

◆ドライブメモリー

データ保存時間（1 ファイル分）：
連続録画：約 5 分間
イベント録画 (SD カード)：約 20 秒間
イベント録画 (内蔵メモリー)：約 15 秒間
データ保存件数：
連続録画：SD カード容量による
イベント録画 (SD カード)：50 件
イベント録画 (内蔵メモリー)：3 件
映像フレームレート：
連続録画：14.9 fps
イベント録画 (SD カード)：14.9 fps
イベント録画 (内蔵メモリー)：9.9 fps
録画モード：高画質（約 1 時間 /GB）、標準（約 2 時間 /GB）、長時間（約 3 時間 /GB）設定可能

◆外形寸法

カメラ部：
30(W) mm × 23(H) mm × 34(D) mm
カメラ部（カバー含む）：
42(W) mm × 43(H) mm × 42(D) mm
本体部：
121(W) mm × 100(H) mm × 22(D) mm
ケーブル長：[映像]：3 m
[ナビ通信]：3 m
[電源]：3 m
[GND]：1.5 m
[カメラ]：5 m

◆質量

本体部：約 190 g
本体部（ケーブル、取付キット含む）：約 450 g
カメラ部（カバー、ケーブル含む）：約 260 g

◆付属品

取付キット：一式
コード類：一式
取扱説明書：1
保証書：1（「ND-CS2」のみ）